銀閣寺鳥瞰図

歩いて学ぶ 哲学の道

●周辺資料
京都班別行動 ¥296
歩いて学ぶ京都 ¥368
京都見学地図 ¥88

ETS research
移動教室 Educational Travel Service
日本教育ジャーナル 昭和38年1月10日第3種郵便物認可月3回発行 教育文化研究所 発行人 入江孝一郎
〒600-8177 京都市下京区烏丸通七条下ル 東洋ビル TEL075-371-6161(代) FAX075-371-6160
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-7 tel03-3294-3500 2003年4月15日2944号

銀閣寺（東山慈照寺）

室町幕府8代将軍足利義政公（1436~1490）により建立された。義政公は、祖父にあたる3代将軍足利義満公の北山殿金閣（鹿苑寺）に習い隠居生活を過ごすため、月待山の麓にあった、応仁の乱で焼失した浄土寺の跡地に文明14年（1482）山荘東山殿を造営した。この東山殿が銀閣寺の発祥である。

銀閣寺は俗称であり、正しくは東山慈照寺。義政公の法号慈照院にちなみ、後に命名された。その後、火災に遭い東山殿当時からの遺構は観音殿（銀閣）、東求堂及び庭園のみであるといわれている。

8才で将軍に

足利義政は8才で8代将軍となり、政務に励んでいたが、のちに都下の対立をおさえきれず、妻である日野富子が政治に介入したことから、政局は混乱を極めた。後継者争いから応仁の乱（1467~1477）が起こり、その最中に義政は9才の義尚に将軍職を譲った。

花頭窓

銀閣/観音堂（銀閣寺・国宝）
長享3年（1489）の建造。下層が心空殿と呼ばれる書院風の造りの住宅、上層が[潮音閣]をきく用いた禅宗仏殿造りの唐言閣と呼ばれる仏堂になっている。住宅と禅堂の2つの様式を組み合わせた事。また、屋根上には鳳凰が置かれ観音菩薩を祀る銀閣を守り続けている。当初は漆で塗装されていたが応風にさらされ変色し、白く輝いて見えたところから銀閣寺という俗称がついたという説もある。

[東求堂]（国宝）本草新堀半応仏が安置されている。また、足利義政と妻日野富子の位牌も安置されている

東求堂（国宝）四畳半間取りの始まりといわれる草庵茶室の源流。現存する最古の書院造で義政の持仏堂と書斎を兼ねる。持仏堂には阿弥陀如来像をまつる。文明17年（1485）に建立。

同仁斎とよばれる四畳半の部屋の窓は、掛け軸に見立てられ四季折々の庭園風景が眺められる。

[東山]文化と[東山]文化

金閣寺に代表される、はなやかで豪華な印象の北山文化に比べて、銀閣寺は禅宗の影響をさらに強く受けた東山文化の「わび・さび」の精神を漂わせている。茶を点て、花を生け、水墨画を楽しむ空間としての空間で構成され、東求堂、西指南（禅堂）、超然亭、漱歯や茶会のための池畔亭、竹亭、釣秋亭などの様々な舎亭が建てられた。

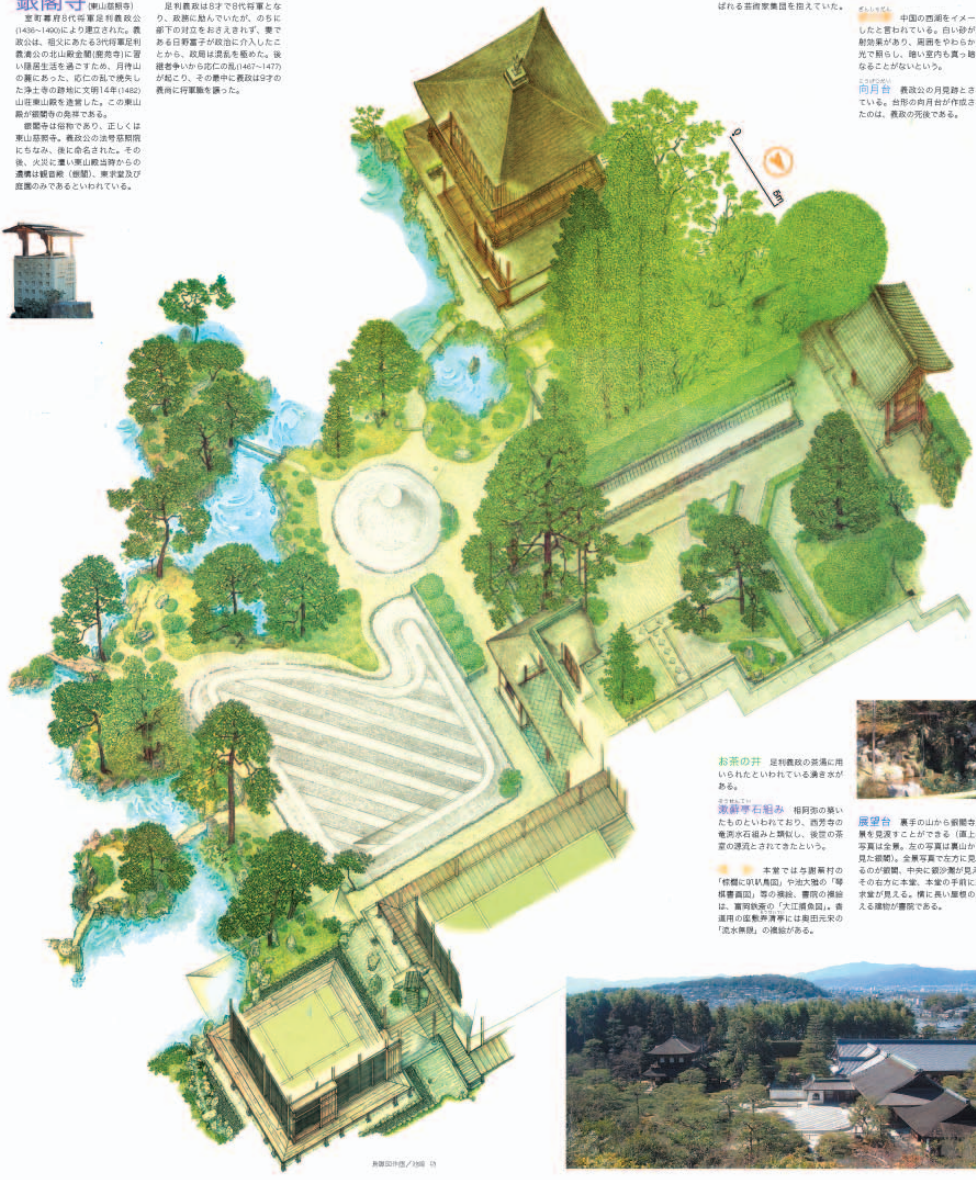
豊かな経済事情を背景とした北山文化に比べ、後の世の茶道や華道となる様々を育んだ東山文化は特式や規模ではない独自の美意識を現代に伝えている。

庭園 特別名勝 西芳寺（苔寺）をイメージして義政と善阿弥の基本設計で作庭。義政はその庭の出来映えを「わが庵は月待山の麓にふかぶかと空の影をしずおもう」と詠んだ。義政は臣下に[]とよばれる芸術家集団を抱えていた。

銀閣寺垣 参道の約50mに渡る生け垣。変化のある石積みの上に竹垣、背後にアラカシなどを用いて四季を通じて清楚な空間を演出している。

[銀沙灘] 中国の西湖をイメージしたと言われている。白い砂が反射効果があり、周囲をやわらかい光で照らし、暗い室内も真っ暗になることがないという。

向月台 義政公の見跡とされている。台形の向月台が作成されたのは、義政の死後である。



お茶の井 足利義政の茶湯に用いられたといわれている湧き水がある。

[漱蔵亭]石組み 相阿弥の築いたものといわれており、西芳寺の滝流水石組みと類似し、後世の茶室の源流とされてきたという。

[東] 本堂では今瀬華村の「[仔鹿]に[引]鳥図」や池大雅の「[琴棋書画図]」等の襖絵、書院の襖絵は、富岡鉄斎の「大江[磯]良図」。書道用の[重]要[弁]清等には奥田元宋の「流水無限」の襖絵がある。

展望台 裏手の山から銀閣寺全景を見渡すことができる（頂上の写真は全景。左の写真は裏山から見た銀閣）。全景写真で左方に見えるのが銀閣、中央に銀沙灘が見え、その右方に本堂、本堂の手前に東求堂が見える。横に長い屋根の見える建物が書院である。